

ごあいさつ -Top Message-

富士通フロンテックグループは、SDGsをはじめ、気候変動や生物多様性など環境問題への取り組みを重要な経営課題の一つと捉え、従業員一人ひとりが主体となってサステナビリティを推進していきます。

環境リスクへの対応

環境問題といえば気候変動や生物多様性などが代表的ですが、近年では、海洋プラスチックなど個別の環境問題もクローズアップされはじめ、国際機関や各国政府、NGO・NPO、企業連合を中心にグローバルな規模での対策が進んでいます。

また、SDGsやESGに代表されるように、「環境」に限定せず、「経済」や「社会」、「ガバナンス」といった個々の課題をいわゆる「サステナビリティ」という大きな括りで捉え、横断的に取り組む動きも活発化しています。

環境問題の深刻化は、気温や海面の上昇、土壌や水質の汚染、資源の枯渇などにより、企業が事業を継続するにあたり大きな障碍となり、ひいては人類が生存していくこと自体が困難となるリスクを内包しています。

環境関連法規制の観点では、RoHSやREACHなどの製品含有規制、気候変動対策としての省エネ法やフロン排出抑制法、環境汚染対策としての土壌汚染対策法や廃棄物処理法などが国内外で改正・強化されており、コンプライアンス違反による事業への影響も大きなリスクです。

また、昨今GPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）がESG投資への積極的な姿勢を表明したように、環境への取り組みの度合いによって企業が投資対象として評価される時代となっており、その意味においても、リスクになります。

大自然から恩恵を受けて活動している我々企業としては環境問題を重要な経営課題の一つとして捉え、率先して取り組む必要があります。

当社グループの取り組み

まず、上位組織にあたる富士通グループでは、SDGsの達成への貢献、脱炭素社会の実現にむけた中長期環境ビジョン「FUJITSU Climate and Energy Vision」の推進、海洋プラスチック問題への取り組みなど多岐にわたる施策を実行しています。

当社グループは、富士通グループの各種施策と足並みをそろえつつ、ヒューマン・リソースや技術・ノウハウ、各拠点の地域性などを基礎にして、独自の取り組みも推進しています。

2016～2018年度の3ヶ年で取り組んだ「富士通フロンテックグループ第8期環境行動計画」では、環境配慮製品および環境貢献ソリューションの開発・提供による環境負荷の低減、GHGおよび廃棄物排出量の削減、そして「良き企業市民としての活動」に取り組み、すべての指標を達成しました。

「第9期」（2019～2020年度）では、前期の取り組みを継続・深化させるとともに、新たなテーマとしてSDGsへの取り組みを計画し、活動を開始しました。

また、当社グループのESGに対する取り組みをすべてのステークホルダーの皆さまに発信することを目的とし、公式Webサイト内に「サステナビリティサイト」を開設しました。同サイトにて、今後も随時、情報を更新・拡大し発信していく予定です。

これら取り組みを中心に、『環境にやさしい企業活動』の基本理念の下、サステナビリティを推進していきます。



代表取締役社長 川上 博孝